

令和5年3月1日

学校法人野澤学園 東村山むさしの第一認定こども園

令和4年度 自己評価・学校関係者評価報告書

1. 学園の教育目標及び目指す園児像

教育目標:

心豊かに たくましく生きる

目指す園児像:

- 友達と元気に遊べる子ども
- 動植物に親しみをもち、情操豊かな子ども
- 心身ともに健康で頑張りぬく子ども
- ものごとを自主的、創造的に考えていく子ども

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

- ◎遊びや生活の中で、様々な環境と関わり、豊かな体験を通して、「知識及び理解の基礎」、「思考力・判断力・表現力の基礎」、「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力が育まれるようにする。
- ◎5領域10姿がみられるよう、幼児の内面の成長につながる体験の質を高めるために、金融教育を遊びの中に取り入れていく。
- ◎保育の記録として園のようすについての配信を積極的に行い、保育内容の理解を促進する。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	決まりを意識して園生活を送れるように、みんなが気持ちよく過ごすために必要なことを幼児自身が考える機会や場面を作る。	A	園生活の中で決まりを意識した生活ができるような場を設定し、決まりが何のためにあるのか考えたり、話し合ったりする時間を設定する。また、園児の自主性や主体性を生かした協働的な活動に取り組む。
2	試す、工夫する、やり遂げる経験を積み重ねられるよう、教材教具を選定し、幼児の実態に合わせたコーナーの設定や教材提示を行う。	B	試す、工夫する、やり遂げる経験を積み重ねられるよう、教材教具を選定する。幼児の実態に合わせたコーナーの設定や教材提示を工夫する。
3	教師や友達の考えに触れる機会を意図的に作り、自分と異なる考えがあることへの気付き、判断したり、考え直したりする経験を通して、自らの考えが広がる面白さを感じられるようにする。	B	朝の会や帰りの会で、園児に話をする機会を設定した。また、話し合い活動を重視し、他の園児の感想を聞いたり、考えに触れたりする経験をさせた。
4	保護者が園と共に幼児を育てる気持ちを持ち、保護者と連携する。	B	園の教育についての保護者の関心や理解が深められるように、ICTを使って定期的な情報発信を行った。

評価基準 (A:大きな成果があった、B:成果があった、C:あまり成果がなかった、D:成果がなかった)

4. 総合的な評価計画

評価	理由
B	評価項目によって達成状況の差が感じられたものの、概ね目指していた取組を行うことができた。日々の園生活の中で、意図を明確にした活動を展開することを今後も徹底していく。また、情報発信を定期的に行ってきたことで職員のICTスキルも少しずつ向上し、保育記録の内容も充実した。保育の振り返りを行いながら、さらに質の高い保育を目指していく。

評価基準（A：大きな成果があった、B：成果があった、C：あまり成果がなかった、D：成果がなかった）

5. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	環境整備	改修工事が終了し、新しい園舎での生活が本格的に始まることから、保育環境について、一つ一つ細かく検証を進めていく。
2	安全管理	社会の感染症への対応の変化を踏まえながら、子供たちが充実した園生活を送れるように、行事等の実施方法を工夫する。
3	研究活動	本園は 2022 年度より 2 年間、東京都金融広報委員会より金融教育研究校として委嘱されている。2023 年度はその活動について発表を行う。

6. 学校関係者（保護者）による評価

子供たちは楽しく幼稚園に通っており、園での毎月の目標を家でも実践する姿が見られる等、教育内容の成果を見ることができている。また、昨年度に比べ ICT を利用した情報発信が増えたが、その内容や頻度にはまだまだ改善の余地があり、今後のさらなる充実を期待したい。